様式８

論　文　内　容　要　旨

報告番号	甲　先　第　337　号	氏　　名	松重　摩耶
学位論文題目	学習者の学び方に着目した干潟・運河での環境教育に関する研究		

■内容要旨

環境教育や自然体験の実践者は教育理論や手法に関する知識が実践的な中で，ESD や『新しい能力』の修得も期待されており，最近の社会や学習者の感性の変化にも対応しなければならない．また干潟や運河のように単発的なイベントで行う環境教育や自然体験において『学習者の学び方』に着目して質的転換を試みた研究はまだ緒についたばかりで教育の実効性を上げることは容易ではない．

そこで，本研究では『学習者の学び方』の視点から環境教育や自然体験の実践的理論の検証を行い，実効性を高める方向性を明らかにすることを目的に研究を行った．なお，フィールドは干潟や運河とする．また，ここでの実効性とは，ある教育や体験で達成した目標の度合が高まること，またはある教育や体験の抱える課題が解決することを指す．『学習者の学び方』とは学習を『何を』『どのように』学んだのかという要素に分けたときの『どのように』の要素である．本研究では特に AL の主体的，対話的，深い学びで学んだのかについて指す．

本研究より，干潟や運河をフィールドとした場合の『学習者の学び方』に着目し，実践的理論の検証を行い，環境教育や自然体験の実効性を高める方向性を提示することができた．主な成果は以下の通りである．

- 第 1 章において，環境教育や自然体験が抱える実践的理論と課題を提示した．
- 第 2 章において，干潟や運河をフィールドとして環境教育や自然体験を行う意義について考察した．さらに，環境教育や自然体験に関する系譜をまとめたことで目的や内容のことなる教育形態が環境教育という言葉で同一視されていることを提示した．
- 第 3 章において，大学生への自然体験教育では，ただ体験させるだけでは学生の素質によっては学びが深まらないことがわかった．その対応として『協同学習』のような個人の責任が明確化され，互恵関係が促進される構造化された原理を組み込むことで，多様な学生の素質に合わせた学びを深めることを提案した．
- 第 4 章において，小学生への環境教育では，知的好奇心や学習意欲を高める理論や発問をプログラムに組み込み，児童が知識の統合や比較等を促しやすいように AL の視点から学習プログラムの質的転換を図った．その過程をアクションリサーチした結果，AL 型の学習をした児童は，学んだコンテンツをつながりとして理解している割合が多かった．さらに，そのような児童は，学習会後に学んだことを親に伝え，自身でさらに勉強するという傾向が示唆された．
- 第 5 章において，実践的理論について考察を行い，『学習者の学び方』に着目して環境教育や自然体験の実効性を高める方向性を示すことができた．また，運河をフィールドとした具体的な『学習者の学び方』も提示することができたが，『学習目標（レベル）』『学習時間』『年齢』や生涯学習に関する適用範囲については今後の課題である．